

人が人として生きられる社会の実現

現代では、様々な人権問題がありますが、日本では「人が人として生きられる」社会になっているのでしょうか？

8月になるとテレビや新聞などでは、先の大戦について取り上げているのをよく目にするようになります。戦争では、人は道具のように扱われ、人権は尊重されず、ただ消費されていだけになってしまいます。さらに非戦闘員である一般市民は、食料を消費するだけの者として邪魔な扱いをされます。戦争は最大の人権侵害行為です。

戦後施行された日本国憲法では、「人が人として生きられる」ことを3番目に掲げています。（日本国憲法第十一条から第十四条まで、第十一条では基本的人権の記載があります）

日本国憲法が施行されて76年になりますが、人は自我を持つことができているのでしょうか。

戦争が終わり78年が経った現在では、日本国憲法の下「人が人として生きられる」権利が保障され、一人ひとりが大切にされる社会の実現に大きく前進しています。人は自我を持ち、自分の意見を自由に発信することができるようになりました。

インターネットの発達によって、誰もが多数の人に対して情報発信できる社会になったことにより、マイノリティーの意思も目にするできるようになりました。

現代の人権問題は自我同士のぶつかり合いにより起こっているものも存在します。すべての自我を受け入れることのできる社会を作ることは、難しいことではありますが、この問題を乗り越えることによって、より「人が人として生きられる」社会になることができるのではないのでしょうか。

沖縄では、日本で唯一の住民を巻き込んだ地上戦が行われ多くの犠牲者を出しました。戦後78年経った現在でも、不発弾が見つかるなど戦争の爪痕が残っています。



城岳（グスクダケ）公園
・国際通りから歩いて約
5分の所にある小丘陵

沖縄戦中は那覇守備隊陣
地壕として使われ、今も
壕の入り口を見ることが
できます。

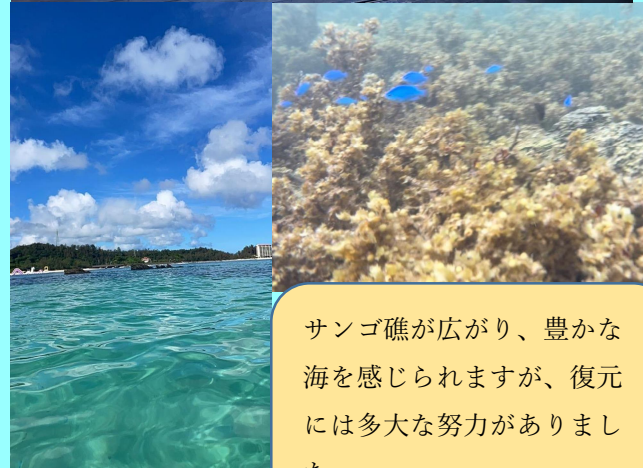
日本国憲法第十一
条

国民は、すべての基
本的人権の享有を
妨げられない。この
憲法が国民に保障
する基本的人権は、
侵すことのできな
い永久の権利とし
て、現在及び将来の
国民に与えられる。

趣味の旅行にて
沖縄を訪れまし
た。

華やかな観光地
の裏には、教訓と
反省として、未来
に受け継ぐべき戦
争の痕跡と復興へ
の努力を感じまし
た。

旅 人



サンゴ礁が広がり、豊かな
海を感じられますが、復元
には多大な努力がありまし
た。